

京都教育大学実地教育用学習指導案(細案)の標準形式【中学校・高等学校版】

※標準的な指導案の形式です。教科等によって形式が異なる場合があります。

※提出時は青字のところを消去する等、体裁を整えること

第〇学年〇〇科学習指導案

指導者(所属)【所属には〇〇領域専攻などを書く】 〇〇〇〇
(指導担当教員 〇〇〇〇)

1. 日時 〇〇年〇月〇日(〇曜) 第〇校時(〇〇:〇〇～〇〇:〇〇)

2. 学年・組 第〇学年〇組 計〇名

3. 場所 第〇学年〇組 教室 (実技教科等、共用の実習室で行う際は他学年との調整が必要)

4. 単元名(または、題材名) 〇〇〇〇〇

5. 単元(または、題材)の目標

【単元全体の目標を育成する資質・能力の三つの柱(「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」)に沿って設定する。表記は、…しようとする、…考えることができる、…理解する、…できる、等で、主語は学習者。観点は教科によって違うので各教科での観点と表記方法に従って書く。】

6. 単元(または、題材)について

①教材観

【系統性を含める。主に、無定義主語で、…の学習がある。…となっている。…とされる。…という価値がある。…をねらいとしている。等】

②生徒観

【本時に関わる内容を含める。主に、主語は学習者で、…に興味をもっている。…を得意とする生徒もいる。…苦手である。…わからない。…できない等】

③指導観

【本時に関わる内容を含める。主に、主語は教師で、…させる、…指導する、…つけさせたい。…資料を活用する。机間指導を多くし、個別指導を取り入れる。グループで話し合わせ、意見を出やすくする。観察する。評価する。アドバイスする。賞賛の声を掛ける等】

7. 単元(または、題材)の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
【…している。…できる等】	【…している。…できる等】	【…しようとしている等】

※単元(または、題材)の評価規準については、国立教育政策研究所教育課程研究センターの「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料に示されている。この資料を参照し、単元目標に沿って具体的に表記する。

8. 指導と評価の計画（全〇〇時間）

次	時	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法等
第一次	1	【授業における学習のねらい・学習活動について、具体的に書く】	【単元を通して、どの学習活動で何をどのように評価するのかを書く】
	2 本時		
	3		
第二次 ・・・	4		
	5 ・ ・ ・		
	・		

※指導と評価の計画については、国立教育政策研究所教育課程研究センターの「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料に示されている。この資料を参照し、単元（または、題材）目標、および単元（または、題材）の評価規準に沿って具体的に表記する。また、形式は教科等によって異なる場合がある。

9. 本時の学習

①本時の目標

【・・・に気付く、・・・考えることができる、・・・理解する、・・・できるなど、主語は学習者。】

②本時について

【略案の場合には必ず記述する。細案の場合は省略の場合もある。教材観、生徒観、指導観を含めた指導意図を書く。】

③本時の展開 【以下は展開の例です】

○主なる指示・発問

区分	学習活動と内容【主語は学習者】 （予想される生徒の反応）	指導上の留意点・支援【主語は教師】 （教師の活動）	評価規準 評価の観点・方法
【例： 導入 （はじめ） 5分	1. 前時（関連事項）の復習 ・＊＊を解き、復習をする。	・本時との関連事項が定着したか（低いと思われる生徒を中心に確認の質問をする）。	

【展開 (なか)】 40分	2. 本時の課題の理解 ・本時の課題を知る。	・課題のイメージを図るために、PCでアニメーション【写真、ビデオなどもある】を見せる。	
【ここには、提示する課題等を書く】			
	・分かっていることと、問われていることを確認する 「**です。」 「**※です。」 3. 個人の課題解決 ・個人で課題を解決する。 【予想される生徒の解答・誤答・反応等を書く】 4. 解答についての話し合い ・解答について話し合う。 【予想される発表内容を書く】 「**でした。」 「**※でした。」	○「分かっていることは何ですか？」 ○「何を求めるのですか？」 ○「どのような答えになるでしょうか。自分の考えをノートに書きなさい。」 ・机間指導し、つまづいている生徒に**の助言をする。できた生徒には、別の解答を考えさせる。 ・特徴ある考えをしている生徒をチェックし、発表の準備をさせる。 ○「考えを発表してもらいます。」 ・違った考えを取り上げ、考えの違いや同じところを対比させやすくする。 ○「似ている考えはどれですか？」 ○「どこが似ていますか、違っていませんか？」	【本時の目標と対応するように、評価規準、評価の観点と方法を具体的に書く】 【以下はこの表の下に④評価としてルーブリックにして示してもよい。 「おおむね満足できる」と判断される状況を書く 「十分に満足できる」と判断される状況を書く 「努力を要する」状況の手立てを書く】
【まとめ (おわり)】 5分	5. まとめ 「**を勉強しました。」 「**※と**※で、##になります。」	○「では、皆の考えをまとめましょう。どのようなまとめになりますか？」	
【ここには、まとめ等を書く】			
	6. 学習の振り返り		

④板書計画

⑤資料等 【生徒が目にするワークシートやスライドは添付必須】

⑥準備物

⑦・・・

(①, ②・・・⑦・・・)の内容については必要に応じて削除や追加をして番号を振り替えること)